

映画論『タイタニック』④ ——ジャックはなぜ救命胴衣を着けないか。——

総合教育科 教授 和田 茂俊

インターネットを見ていると、ローズはなぜジャックを海に沈めたか、という質問が目に入った。はたしてローズは、ジャックを海に沈めたのか。

『タイタニック』では、船の空間構造とストーリーが明確に関連づけられている。二人が出会う船尾は〈受動性＝死〉を意味しており、キスをする船首は〈能動性＝生〉を意味している。『タイタニック』は受動的に生きていたローズが、ジャックの助けによって生への意志を回復する物語であり、「二人がいる場所」は明らかに意味をもつ。ジャックはローズを、死に近い船尾から、意志の場所である船首へと導く。

『タイタニック』では、上下の方向も意識される。ジャックとローズが見つめ合うとき、視線はたいてい縦方向、つまり斜めに配置される。男の顔が高い位置にあるか、女の顔が高い位置にあるか、そのいずれかだ。ローズを初めてジャックが見るとき、ローズは高い甲板にいて、ジャックはローズを見上げている。もちろん、これは二人の属する階級の違いを表す。だが、それだけではない。二人の視線が斜めに配置されることで、男女間の距離と緊張感が生まれ、上からの視線は保護と受容を、下からの視線はあこがれと意志を表現する。

二人の待ち合わせ場所はホールの階段だ。夕食会に招かれたジャックを、ローズは階段の上からやさしく見下ろして受け入れる。デートに誘われたローズは、階段の上で待つジャックを下から見上げて、思い切って階段を上る。意志の視線は、下から上に向かうのだ。

救命ボートからローズが飛び移る場面は、ローズの意志の力が試される瞬間だ。ジャックはタイタニックの上において、降ろされていくボートのローズを優しくあきらめながら見下ろしている。ローズはジャックを見上げ、そしてボートから降りることを決意するのだ。

さて、『タイタニック』はローズが意志を学ぶ物語だが、意志を最もよく表す映像は〈運動〉である。七曲署の刑事も、『卒業』のダスティン・ホフマンも、『まどかマギカ』のオープニングも、走ることで意志を表している。ジャックはローズに意志を教える存在だ。もしもジャックが救命胴衣を着けていたら、ほかの死者たちと同じく、浮力のために水面に停止してしまう。ジャックは運動する意志そのものだから、救命胴衣を着けたりしない。ジャックは海に沈むのではなく、「空飛ぶマシーンで」の歌どおり、夜空のような海を手を軽く広げたまま飛翔して去る。

(『紀伊民報』平成二八年五月一七日)